

読者, 2021.1.31

私流 演技とは

嵐圭史著

歌舞伎からミュージカルまで幅広くこなす劇団前進座で、長らく看板役者として活躍した著者が、数々の名舞台の経験を基に作品論、演技論を熱く論じる。

対話劇「玄朴と長英」では、演じる者の立場から芝居の緊迫感をつづり、くせりふというものに無機質はなく（中略）呼吸にさえも「色」が、感情をも含めた

表現の「色」が求められるなど、独特の表現で演技の要諦をつづった。また「蓮如」では、作者の五木寛之さんとのやりとりを通じて、登場人物の理解を深めた経験を紹介するなど、読みどころが満載。役者人生を振り返る章にも、演じることへの愛着がにじむ。

舞台写真集『百姿繚乱』も、同時期に刊行。本書と併せ読むと、現場の汗まで伝わってきそうな迫力がある。（本の泉社、1700円）
（泉）

..... 記者 が 選 ぶ